

# ＝ 田布施 農ある暮らし vol.5 ＝

～ご存じですか『農業・農村の有する多面的機能』について～ 閏経済課 農林振興係 ☎ 52-5805

農業・農村は、私たちが生きていくのに必要なお米や野菜などの生産の場としての役割を果たしています。一方で、農村で農業が継続して行われると、防災・減災や美しい農村の風景が癒しや安らぎをもたらし、体験学習を通じた教育の場になるなど、私たちの生活に色々な『めぐみ』をもたらしてくれます。このめぐみを『農業・農村の有する多面的機能』と呼びます。

田布施町では、これらの機能の発揮を後押しするため、農林水産省の多面的機能支払交付金制度を活用しています。この制度は集落内の農業者などを中心になされた活動組織に対し、農業・農村の持っている多面的機能の維持・発揮を図るための活動に対して交付金を交付するものです。平成19年から各地域が組織化してこの交付金を活用した取組みが行われています。

地区ごとの活動組織	
①	小行司美土里チーム
②	上田布施・大田地区環境保全チーム
③	大波野環境保全隊
④	轟・葛岡環境保全会
⑤	宿井環境保全会
⑥	木地を守る会
⑦	中西保全会
⑧	瀬戸環境保全会
⑨	麻郷奥保全会
⑩	石ノ口保全会
⑪	潤田環境保全会
⑫	御蔵戸保全会
⑬	国森・大力地区環境保全会
⑭	納所環境保全会
⑮	西山環境保全会
⑯	中郷環境保全会
⑰	吉井保全会
⑱	西田布施・友石環境保全会
⑲	新川・本町環境保全会
⑳	時貞保全会



◀ 農道の草刈り作業風景



▶ 環境保全活動  
生きもの調査

しかし、過疎化・高齢化・混住化などに伴う集落機能の低下により、保全管理が困難となっている状況を踏まえて、平成29年度に町全体で1つとした組織の広域化を図りました。これは地域単位ではなく町内全域の住民が連携して活動を支えていくことが可能となることから、地域の枠にとらわれず、横断的にさまざまな人が参画できるような体制になっています。

- ・活動組織 田布施町地域広域協定運営委員会（支部活動組織数 20 組織）令和元年10月1日現在
- ・取組面積 341ha（農業振興地域内）
- ・保全対象 農地・農道・水路・ため池など
- ・交付金額 29,649千円（平成30年度実績）
- ・活動内容 農地法面の草刈り・水路の泥上げ、農道の路面維持、環境保全活動（植栽、生態系保全）  
農業用施設の長寿命化など

## TOPICS ①

### ■キャベツの生産を開始

国営ほ場整備事業を契機に設立された葛岡・瓜迫農事組合法人（宿井地域）が新規就農者を雇用して新たにキャベツの生産を開始しました。同法人の役員さん曰く「初めての試みで試行錯誤でしたが非常に出来が良く、立派なキャベツになりました。」とのこと。現在、収穫期を迎え、青果市場および地域の直売所で販売をされています。



## TOPICS ②

### ■「地域おこし協力隊（農業）」の活動報告

平成30年10月1日から活動している協力隊の柴田さんが任期2年目を迎えました。



▲木地集落の営農法人の皆さんとの集合写真

### ▼タガヤセタブセ体験ツアーでのイチジク説明



### ■1年をふりかえって

今年で協力隊の活動が1年経過しました。主な活動を振り返ると農作業を通じて小行司集落や、木地集落の営農法人などに温かく迎えられ、ますます農業を本気でやってみてみたい気持ちが芽生えました。また、町や県、農協主催の研修会には必ず参加し、栽培知識や農家栽培巡回によってさまざまな農家と知り合えたことは貴重な財産になっています。

将来的には自分を受け入れてくれた集落の営農法人も就農先の一つと考え、次年度は法人での作業を核に、現在実践中のイチジク栽培も含めて任期終了後の自分に合った就農プランを模索していきたいと考えています。

【記：地域おこし協力隊 柴田 功】